

発表内容の概要



宮藤 久士 氏((公大)京都府立大学 大学院生命環境科学研究科
生命環境学部 森林科学科 森林資源循環学研究室
産学連携リエゾンオフィス副所長 教授・博士)

タイトル : 「木材利用の未来を切り拓くイオン液体を用いたバイオリファイナリー技術」

【概要】

木材を柱や床などの建築材料として利用するだけでなく、その化学成分を利用するバイオリファイナリー技術の開発は、木材に新たな価値を創造し、林業や木材産業の活性化につながるとして、大きな期待が寄せられております。本講演では、木材の利用を促進し、木材利用の新たな未来を切り拓く可能性を有するイオン液体と呼ばれる特殊な反応媒体を用いたバイオリファイナリー技術について、これまで行ってきた研究開発について紹介します。

<備考>

バイオリファイナリー : 再生可能資源であるバイオマスを原料にバイオ燃料や樹脂などを製造するプラントや技術。



乾 将行 氏((公財)地球環境産業技術研究機構
バイオ研究グループ グループリーダー 主席研究員・博士
奈良先端科学技術大学院大学客員教授)

タイトル : 「炭素循環社会の実現を目指したバイオ燃料・グリーン化学品生産」

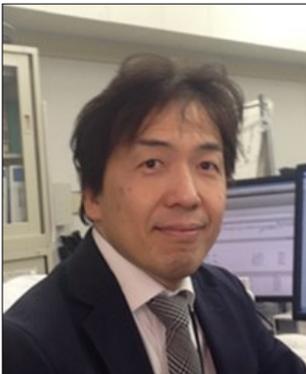
【概要】

バイオ × デジタルの融合技術による化石資源に頼らない炭素循環社会の実現が国家戦略の一つとして挙げられ、高度に機能がデザインされたスマートセルによるバイオ燃料や化学品の生産技術が急速に進展しています。本講演では、このスマートセル技術とRITE Bioprocessによるバイオリファイナリー製品の生産技術開発について紹介します。

<備考>

スマートセル : 高度に機能がデザインされ、機能の発現が制御された生物細胞。
スマートセルインダストリー : スマートセルを用いた産業群。

※経済産業省 産業構造審議会 商務流通情報分科会 バイオ委員会 中間報告書案(2016年6月)抜粋



山田 竜彦 氏((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 新素材研究拠点長
研究コンソーシアム : SIPリグニン 研究代表
併任:筑波大学 生命環境系 教授(連携大学院))

タイトル : 「未開の国産資源『リグニン』で創る新産業」

【概要】

「リグニン」という木材主成分の材料利用に特化した大型研究コンソーシアム「SIPリグニン」を設立し、国産リグニン資源をマテリアル利用するニュービジネスの創出を試みています。今回は、SIPリグニンにおける取り組みと、それによる地域創生の可能性について紹介します。



堀 哲也 氏(日本乳化剤株式会社 企画開発部 担当部長)

タイトル : 「最近のイオン液体開発動向と市場性」

【概要】

イオン液体は、カチオン／アニオンで構成される液状の“塩”で、その組み合わせから特異的な機能を発現する機能材料として注目されております。

弊社では、独自の合成技術よりイオン液体の開発を進めており、今回のご説明では、弊社イオン液体とバイオリファイナリーに有望なイオン液体をご紹介します。